

海外学生派遣事業 終了報告書

所属：生命科学研究科 基礎生物学専攻

氏名：林 誠

海外派遣先国：韓国

海外派遣先大学：Seoul National University (ソウル大学)

海外派遣期間：2008年 9月 12日～ 9月28日

報告年月日：2008年 9月 29日

○海外派遣先大学について

ソウル大学は、ソウル南部の郊外に位置する韓国の国立大学で、冠岳山の麓に位置しています。キャンパスは非常に広々としており、現在も新校舎が建設されています。

受け入れ教官のHan教授の研究室は、遺伝子導入ニワトリの作成と、鳥類の生殖細胞の発生メカニズムの研究を世界に先駆けて行っている研究室です。実験に用いるニワトリやウズラなどは、ソウルから地下鉄とバスで1時間弱の水原（スウォン）市にある農場で飼育されており、農場の方にも研究室が設けられています。

○海外派遣前の準備

[志望動機]

大学院では、基礎生物学研究所の小林教授のもと、ショウジョウバエの生殖細胞発生メカニズムの解析に従事してきましたが、以前より、農学への応用性の高いニワトリの生殖細胞発生メカニズムについても興味がありました。ソウル大学のHan先生は、近年、精力的にこの分野の研究をなされている研究者です。

昨年度、当事業の援助によりこのHan先生の研究室を訪問し、多くのことを学ぶことができたので、学位審査修了後、卒業までの間に、再度先生の研究室を訪問し、さらに多くの知識を得ることが出来れば今後の研究において非常に有意義なものになると考え、この短期海外派遣事業に応募するに至りました。

[受け入れ先教官との連絡、渡航準備]

受け入れ先教官のHan教授との連絡は電子メールで行いました。前回の訪問後も、継続して電子メールで連絡をしており、再度、当事業により訪問したいことを伝えたところ、快くお返事をいただくことができました。

渡航準備としては、大学の近くのホテルの予約、航空券の手配、海外留学保険への加入手続きなどを行いました。韓国へは最大90日までビザなしで滞在可能なため、今回はビザの取得は行いませんでした。

○海外派遣中の勉強・研究

今回の派遣では、前回の訪問の時と同様、Han教授とディスカッションを行うことができました。また、研究室の学生やポスドクの方から、各自が行っている実験について教えていただき、実際に実験を行っているところを見せてもらったり、体験させてもらったりすることができました。

また、今回の訪問では、Han教授の研究室だけでなく、ソウル大学獣医学部で教授をなされている日本人の木村先生ともお会いすることができ、先生のお仕事や韓国の研究環境などについても教えていただくことができました。さらに、木村先生のご紹介でLee Byeong Chun先生ともお会いすることが出来ました。この先生は、世界で初めてクローン犬を作られた先生で、今もソウル大学でクローン動物（特に犬）の作成の研究に従事されています。その先生の研究室も見学させてもらうことができ、実際に犬の卵子を取り出す手術なども見学させてもらうことができました。また、世界初のクローン犬のスナッピー（Snuppy）も見せてもらうことができました。

2週間という短い期間でしたが、Han先生の研究室で色々なことが勉強できただけでなく、木村先生やLee先生ともお会いして多くのことを教えていただくことができ、貴重な体験をすることができました。

○海外派遣中の勉強・研究以外の活動

平日は、研究室の学生と食事や飲みに行くことが多く、韓国での生活や研究室のことなどについて、話を聞くことができました。また、そこで色々な韓国料理も味わうことが出来ました。

また、週末には、日本人の知人を訪ねて、釜山にも行ってきました。釜山は、秀吉が朝鮮侵略を開始したところで、その史跡が残っており、韓国の歴史の一面をかいま見ることが出来ました。

今回の韓国訪問で、違った文化に触れ、多くの方と交流を持てたことはとてもいい経験になりました。

○海外派遣費用

今回の派遣費用は、当事業による助成金でほぼまかなうことが出来ました。

ホテル滞在費と航空券代が出費の大部分を占めました。食事は、学食を利用すると一食300円くらいで、研究室で出前を利用すると600円くらい、外食すると1000円くらいでした。

韓国の公共交通機関の料金は非常に安いので、韓国内での交通費は非常に節約できました。

全体としては、助成額をそれほど大きくオーバーすることはありませんでした。

○海外派遣先での語学状況

研究室内での会話は韓国語が使われていました。僕とディスカッションするときや、会話をするときには英語を用いてくれるのですが、研究室内でも、周囲の会話が理解できないことから、韓国語の必要性を感じました。

生活面においても、特に会話を必要としないコンビニなどでの買い物は問題なくこなせましたが、韓国語で会話が出来ないため、一人でレストランなどに入って食事をすることは困難でした。

研究と生活の両方において、韓国語の必要性を感じました。

○海外派遣を希望する後輩へのアドバイス

海外の研究室で、日頃とは違った分野の研究に触れ、その国の大学院生たちと話をし、海外の研究室の雰囲気味わってみるといのは非常にいい経験になりました。

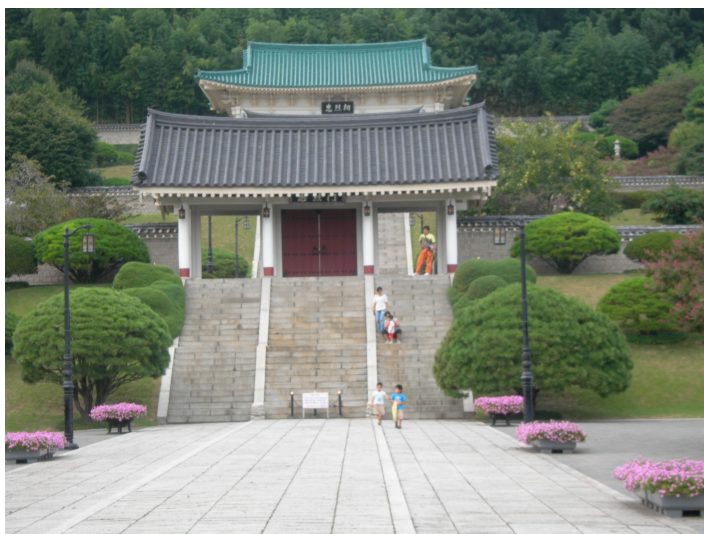
この海外派遣事業は、自分が行っている研究について海外の研究者とディスカッションを行うだけでなく、自分が興味がある他の研究に触れたりすることもできるすばらしいシステムです。大学院生という限られた時間の中で実験を中断して、数週間研究室を離れるというのは難しいことかもしれません。しかし、今回、僕が利用したように学位審査修了後、卒業式までの間という少し時間的余裕のある時期などを利用して、海外の研究室を訪問し、見聞を広めてくるというのもいいのではないかと思います。その経験は、将来、研究を続けて行く上で決して無駄になるものではないかと思います。機会があれば、是非参加してもらいたいと思います。



College of Agriculture & Life Sciences
研究室がある建物。



Snuppy
世界初のクローン犬。



忠烈祠
秀吉の朝鮮侵攻に対して、釜山を守ろうと戦った
烈士の位牌が祀られている。